

## A. タタリノフ 『レクシコン』 注釈5 (M~H)

江口 泰生

(まえがき)

キリル文字日本語とひらがな日本語の記入

『レクシコン』著者がどのようにして語彙を収集したかについては、江口「注釈4」(『岡山大学社会文化科学紀要』40、2015.11)で述べた。こうして収集した語彙に対して、最初にキリル文字日本語を宛て、次にキリル文字日本語を参考にしながらひらがな日本語を書いたと考える。

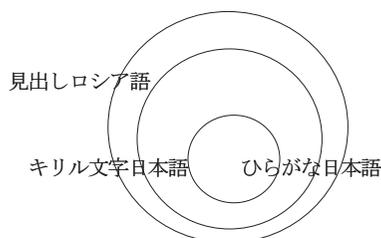
その根拠である。第一に、見出しロシア語があるのにキリル文字日本語だけがない箇所、見出しロシア語があるのにキリル文字日本語とひらがな日本語の両方がない箇所(つまり見出しロシア語のみあるもの)、見出しロシア語とキリル文字日本語はあるのにひらがな日本語だけがない箇所、以上三種類を拾い上げてみた。その用例数と用例の一部を示してみると次表がえられる。

キリル文字日本語だけがないもの	キリル文字日本語、ひらがな日本語、ともにないもの	キリル文字日本語はあるが、ひらがな日本語だけがないもの
2例(以下、全例)	39例	52例
2a「Аше ежелй(もしもし~ならば)あ志、あ」 *見出しロシア語の発音をそのまま掲載したもの	2a「Ашебы(もし)」「ахапка(一抱え)など	4a「балатйрюють(投票して選ぶ)」「торйгаймась(トリガイマス。取り替えます)」「007b「вынашу(運び出す運ぶ)」「мотте игймась(モツテ イギマス。持って行きます)」「013a「жвака(反芻)(噛みたばこ)」「кадо(カド 身欠きニシン)」「023b「морошьно(曇り)」「кв умаремашта(クウマレマシタ 曇りました)」「23b「мокро(湿った)」「нуре да(ヌレダ 濡れた)など
35a「скоблю(削る かんなをかける)ちゃん」 *キリル文字日本語がないのにひらがな日本語があるのは変だし、その日本語「ちゃん」も見出しロシア語と対応していないのも変である。次行(樹脂 タール チャン)の日本語訳を間違えて記入したものと思われる。		

表の左欄をみると、キリル文字日本語のみ欠落している例は2例のみであるが、1例は見出しロシア語の発音をそのままひらがな日本語にしたもの、1例は後述のように次行のひらがな日本語を誤って書き込んだものである。つまり、この2例は例外的な存在であって、基本的に少なくとも見出しロシア語に対してキリル文字日本語は書き入れようとした、という関係なのである。

次に表の中欄と右欄をみると、キリル文字日本語がなければひらがな日本語は書き込まれず（中欄）、キリル文字日本語があってもひらがな日本語が書き込まれないものもあった（右欄）ということがわかる。

これは要するに、見出しロシア語が最初にあって、次にキリル文字日本語が書かれて、それを参照しつつひらがな日本語を書き込んだが、場合によってはひらがな日本語を書き込めなかったという順番を示唆しているのではなかろうか。包含関係を図で示すと以下のとおり。



第二の根拠は、ひらがな日本語を書き込めなかった場所が偏っているからである。『レクシコン』は50枚ほどの冊子であるが、ひらがな日本語が未記入の箇所をみると、前半部分は比較的漏れなくひらがな日本語が書かれている。前半部分にひらがな日本語がないのは3例であるが、そのうちの007bの「мотте игймасъ」（モツテ イギマス<sup>°</sup> 持って行きます）の例は、その前の行に見出しロシア語「вынашу」（運び出す 運ぶ）が書かれ、キリル文字日本語とひらがな日本語「デ デイギマス<sup>°</sup> てて イきます」とあり、その次の行に見出しロシア語がなく、キリル文字日本語だけが書かれている例である。後述とも関連するが、訂正の段階で書き込まれたものではなかろうか。

途中の23枚目あたりから、ひらがな日本語が抜け落ちる傾向が見られ、最後の例文部分になるとひらがな日本語は全部抜け落ちている。これは著者であるタタリノフがひらがな日本語を書き込む作業が途中で面倒になったのではなかろうか。タタリノフがひらがな日本語を書くのに苦勞していた、彼なりの仮名遣いでひらがな日本語を書き表していたことは、江口「タタリノフ著『レクシコン』からみた18世紀下北佐井方言の四つ仮名」（『国語と国文学』平成27年9月号）にも拗（長）音表記や四つ仮名表記の面で述べた。簡単にまとめると、拗（長）音はア段ウ段オ段を問わず全て「いやう」で表記し、四つ仮名のジチは「ち」、ズツは「つ」で統一するのである。

キリル文字日本語が先に書かれ、ひらがな日本語があとで書かれたと考える第三の根拠は、キリル文字日本語が先行したと考えて、はじめて説明できる語形があることである。ひらがな日本語に、たとえば濁音の前鼻音を反映したとみられる語形がある。「うさんき」（兎）、「いちんこ」（苺）、「てむふくろ」（手袋）、「うむば」（乳母）などである（以下の例）。

14b 「усангй うさんき」（ウサンギ 兎）

15b 「іжйнго いちんこ」（イジンゴ 苺）

32a 「тембургро てむふくろ」(テム°ブグロ 手袋)

37a 「умба うむば」(ウム°バ 乳母)

日本語では「うさぎ」「いちご」を「うさんぎ」「いちんご」と発音することはあっても書くことはない。さらに「ん」はガ行の前、「む」はバ行の前というように逆行同化を反映している。タタリノフは拗(長)音を表記するのに苦労していたことは前述したとおりだが、その一方で、逆行同化した鼻音を「ん」「む」で書き分けるといふ、音声的実現を反映した、実に高度な仮名遣いを実行しているわけである。このアンバランスな書記態度はどのように解釈したら良いであろうか。こういう場合、高度な書記方法を習得していたと考えるよりも、タタリノフは日本語をひらがなで表記することはあまり得意ではなく、特に拗(長)音のかな表記の仕方はよくわかっていなかった、しかし後続音に同化した鼻音は、それを反映したキリル文字日本語から、そのままひらがなに転写できたから、表記することが可能となった、と考えてはどうだろうか。

もっともキリル文字日本語とひらがな日本語が異なる語形を表す例もごく少数であるが存在する。たとえば、30bに「пустое место」(何もない所)に対して「юда того ро иいたところ」(ユイダ トゴロ 行いた所)とある。キリル文字日本語では「ユイダ」と読めるが、ひらがな日本語は「イいた」である。「ユイダ」は語中の有声化が生じているから、元の形は「ユイタ」である。

「行く」の音便形についてはこれまでも問題となってきた。橋本四郎『『行く』の音便』(『女子大国文』12、1959)、追野虔徳「カ行イ音便の形態的定着」(『方言史と日本語史』所収、清文堂、2012)など。「行く」はカ行四段動詞なのに、連用形は促音便形「イッタ」になることが問題とされてきた。18世紀下北方言では『レクシコン』の用例から、終止形は「ユク」、連用形は「ユイタ」のように発音し、促音便形を持たなかったのではなかろうか。

37bに「утрен`няя роса」(朝露)に対して「асано абу あさの あふ;つゆ」(アサノ アブ 朝のあぶく)とあり、ひらがな日本語だけに「つゆ」という語が増えている。「アブ」が方言形、「つゆ」が標準語形、と見られるが、こうした例もあるので、全てがキリル文字日本語をひらがな日本語に置き換えたというようには言えないが、基本的にはまずキリル文字が書き込まれ、次にひらがな日本語が書き込まれたという順番は動かないところだと思う。

キリル文字日本語が先に書かれたとする第四の根拠である。035a「скоблю」(削る かんなをかける)にキリル文字日本語がなく、「ちゃん」(瀝青 チャン)というひらがな日本語のみが書かれている。「かんなで削る」という見出しロシア語に「ちゃん」は奇妙である。どうしてこのような奇妙なことが生じたのかは、次の行をみるとその理由がわかる。次の行に「смола」(樹脂 タール チャン)に対して「чань чяуん」(チャン 瀝青 チャン)とある。「ちゃん」というのは『日本国語大辞典』によれば「近世の和船や唐船の船体・網具などに用いる濃褐色の防腐用塗料。松脂・油・蜜陀僧・輕粉などをませ合わせ、熟してつくる。れきせい。」であり、『環海異聞』

などにも出てくる語彙で、船には必須の塗料だったと思われる。前行のひらがな日本語は本来は次行に当てるべき日本語なのであり、目移りがして一行、上に書き込んでしまったものと思われる。こうしたことが生じるのはキリル文字日本語が先に書かれ、ひらがな日本語が後で書かれたからだと思う。

このように見出しロシア語の次にキリル文字日本語が書かれ、その次にひらがな日本語が書かれたと思われる。その後、キリル文字日本語が訂正されている箇所があると考え。その根拠は以下のとおりである。

41bに「черепанъ」(陶芸家)の見出しロシア語に対して、キリル文字日本語「каме」部分は「и」を消して上から「е」を書き、「каме кошрайру вто」(カメ コシ<sup>ラ</sup>イルフト 甕 こしらえる人)と書く。ところがひらがな日本語は「かみ こしらえるひと」と書く。したがって最初「ками かみ」と書き、その後、キリル文字日本語部分だけを訂正したことになる。

37aに「тетеря」(やまどり)という見出し語がある。「киду」の「ду」の上から「жи」を上書きして訂正している。ひらがな日本語は「きつ;きち」(キドゥ キジ 雉)とある。村山1965『漂流民の言語』には「ジの表わし方が動揺している」という指摘があり、音声的なユレのように受け取れる記述があるが、どうだろうか。ここも最初に「киду」と書き、そのキリル文字日本語からひらがな日本語「きつ」が宛てられた。次に、そのキリル文字日本語が誤りだと考えて「киду」の「ду」の上から「жи」を上書きして訂正して、それを反映して「きち」というひらがな日本語が宛てられたと考えられるのではなかろうか。最初の「киду」は誤りだと考えられる。そもそも日本語のヅ(ズ)は「дзу」「зу」で表記されるのが普通であり、「ду」で表記されることは普通ではない。

こうしてみると、前掲の「асано абу あさの あふ;つゆ」は最初、「アブ」という語形を書き、次に「つゆ」という語を追加したのだと考えられる。

以上のとおり、タタリノフは『レクシコン』を作成するにあたって、『新スラヴ日本語辞典』にさほど大きな影響は受けておらず、日常的に用いる語彙を収集した。それにキリル文字日本語を宛て、次にひらがな日本語を当てていったと考えられる。ひらがな日本語の表記にはかなり苦労していたことがうかがわれる。

#### 文例集の成立

一方、『レクシコン』の末尾の文例集はゴンザ『日本語会話入門』とほとんどが一致する。これについては村山1965の指摘がある。村山の指摘にはないが、『日本語会話入門』494の「гднѣ владѣть домо́м」を参照して、『レクシコン』45a(2)「госпо́днѣ управлѣть своѣмъ домо́мъ」(氏長は家系を統制する)が成立しているのではなかろうか。

通覧すると分かるように、冒頭と最後を除くと、例文集部分の見出し例文はほとんどが『日本語会話入門』からの抜粋で、ほぼまる写しである。

『日本語会話入門』は意義分類された例文集であるが（全体は序文から19章「結び」まで）、『レクシコン』はその後半の途中第11章「副詞について」から第18章「敬虔」の例文の中から抜き出していると思われる。

ほとんどをまる写しにしながらも冒頭と末尾は『レクシコン』独自の例文である。これをどう考えれば良いであろうか。これは数年に一度発見するレポートのことを思い出すと、理解がいたるように思う。まる写ししたことを隠すために、最初と最後だけを自分の文章で書き、まる写し部分を途中に潜ませるとい手法なのではなかろうかと想像される。

## 『レクシコン』注釈5 (M~H)

【M】						
481	022a	Милость	(好意 恩恵 慈悲)	キリル文字日本語なし	ひらがな日本語なし	
482	022a	милосердый	(慈悲深い)	фошано вто	ほしやのひと	フォシャノ フト (報謝の人)
483	022a	милостыня	(施しもの 喜捨 慈善)	джйфй	ちひ	ヂフィ (慈悲)
484	022a	мймо	(脇を 側を)	ваги	わき	ワギ (脇)
485	022a	мудрость хитрость	(賢明 利口さ)	музгаши	むつかし	ムズガシ (難しい)
*『日本方言大辞典』の「むつかしい」項の「利口だ。悪賢い」「親切だ」に相当しよう。用例として本例が採用されている。						
486	022a	мудрый	(賢い)	музгаши вто	むつかしひと	ムズガシ フト (難しい人)
487	022a	мужевтвенный	(男らしい)	чкара нарувт о	ちからなるひと	チカラ ナルフト (力なる人)
*ロシア語「мужественный」参照。						
488	022a	мертвый	(死んだ)	морй	もり	モリ (森)
*『日本方言大辞典』には「もり (森)」に「塚。墓。青森県三戸郡」が掲載されている。本例もその例になると思われる。佐藤『南部のことば』に「もり・もりこ②丘・塚・墓 (五戸)」とある。						
489	022b	местω	(場所)	тогоро	ところ	トゴロ (所)
490	022b	медь	(蜂蜜)	мй\д/зь	みつ	ミヅ (蜜)
*ロシア語は「мёд」(蜜) 参照。						
491	022b	медь	(銅)	шйньчу	しんちやう	シンチュ (真鍮)
492	022b	межа гранйца	(境界)	сагай	さかい	サガイ (境)
493	022b	мельница	(製粉所)	курума	くるま	クルマ (車)
494	022b	мельница	(製粉所の人)	куруmano вто	くるまのひと	クルマノ フト (車の人)
495	022b	месънйкъ	(白)	фйгйусу	ひきうす	フィギウス (ひき白)
*ロシア語は「месильщик」(練り手 こね手) や「месить」(粉を練る、こねる) と関係する語か。						

496	022b	месной рядь	(肉屋街)	уши ма\д/же	うませ°	ウシ マヂェ (牛街)
		*ロシア語「мясной ряд」参照。キリル文字日本語とひらがな日本語が食い違うが、「ぢ」を「ぜ」と書くのは518にも見られる。「うまち」と書こうとしたものか。				
497	022b	мешекъ	(袋)	фугуро	ふくろ	フグロ (袋)
		*ロシア語「мешокъ」(袋)参照。				
498	022b	медвець	(熊)	къmano шйши	くまのしし	ク°マノシシ(熊)
		*ロシア語「медведь」(熊)参照。				
499	022b	мас'теръ	(親方 職人)	жю°о\д/зу в'то	ちやうをつ ひと	ジョオヅ フト (上手人)
500	022b	манерь: о\б/разецъ	(作法; 見本 典型)	キリル文字日本語 なし	ひらがな日本語なし	
501	022b	маска	(仮面)	кабури моно	かふ°りもの	カブリ モノ(被 り物)
502	022b	мажу	(塗抹する)	нурймасъ	ぬります	ヌリマス° (塗り ます)
503	023a	мыльня баня	(風呂)	юя	ゆや	ユヤ (湯屋)
504	023a	мышь (ママ)	(鼠)	незу'мй	ねつみ	ネズミ (鼠)
505	023a	мытое	(洗った)	аратъта	あらた	アラト°タ (洗っ た)
		*「мытый」(洗った)参照。				
506	023a	мыло	(石鹸)	акаодошй	あかとし	アカオドシ (垢 落とし)
		*ペトロフ1962で、たくさんの日本語単語を用いてロシア語一語の概念を表す例として指摘。				
507	023a	мука	(穀粉)	ко	こ	コ (粉)
508	023a	мука роженая	(ライ麦粉)	мугйно кω	むきのこ	ムギノコ (麦の 粉)
		*ロシア語は「рожь」(ライ麦)参照。				
509	023a	мука пшенишка	(小麦粉 トウ モロコシ粉)	комугйно ко	こむきのこ	コムギノコ (小 麦の子)
510	023a	маль чикъ	(男児)	одого вараши	をとこわらし	オドゴワラシ (男 童子)
511	023a	малйнная девушка	(少女)	онаго вараши	をなこわらし	オナゴ ワラシ (女童子)
512	023a	машйна	(機械 自動オ ルガン)	фуги	ふき	フギ (吹き)
		*「フキ」は「吹いご」の意である(『日本方言大辞典』)。ロシア語「машина」には自動オルガンの意味がある。自動オルガンはゼンマイや手廻しの動力によりフィゴで風を発生させる。その風をパイプやリードなどの発音体に送り込み演奏させるもの。そのフィゴ部分が一致したので「フキ」という日本語訳をあてたのだと思われる。				
513	023a	матросъ	(船乗り)	фна гада	ひながた	フ°ナガダ (船方)
514	023a	мар'шъ: походъ	(行軍; 行軍 航海)	игусазу	いくさつ	イグサズ (戦路)
		*明らかに「イグサ」と読める。「イグサズ」は「戦路」(イクサジ)のことではなからうか。				
515	023a	маг'нитъ	(磁石)	гйшагу	きしやく	ギシャグ (磁石)
		*『天正狂言本』にも「ぎしゃく」例あり。『庄内浜萩』にも漢語語頭のジに破裂要素が加わり、ギとなった例がある。「じんばさうヲ ぎばさ」。				
516	023a	мость	(橋)	фашй	はし	ファシ (橋)
517	023b	мозгъ	(脳)	номйсо	のみそ	ノミソ (脳みそ)
518	023b	молотъ	(槌 ハンマー)	кана зу\д/ж и	かなつせ (マ マ)	カナズデ (金槌)
		*チを「せ」と書く例は496がある。				
519	023b	море	(海)	умй	うみ	ウミ (海)

520	023b	моръско берегъ	(海岸)	умйно каваба да	うみの か わはた	ウミノ カワバ ダ (海の川端)
521	023b	морс кое пристанйще	(海の避難所)	мйнадо	みなと	ミナド (港)
522	023b	морошьно	(曇り)	квумаремашта (ママ)	ひらがな日 本語なし	クウマレマシ <sup>タ</sup> (曇りました)
		*ロシア語「морозно」(冷え切って)と関係するか。ベトロワ1962で「曇り」でシベリア方言とする。村山1965では欠。				
523	023b	мокро	(湿った)	нурета	ひらがな日 本語なし	ヌレダ (濡れた)
		*ロシア語は「мокрѐ」(ずぶ濡れの)参照。				
524	023b	моровое пове\т/рне	(伝染病 ペス トや天然痘)	игйрей	いきれ (マ マ)	イギレイ (疫癘)
525	023b	мочуся	(尿する)	шобень шймас ъ	しやうへん します	ショベン シマ ス <sup>°</sup> (小便します)
526	023b	見出しロシア語は前行と同じ。		2 шоюшимасуре	ひらがな日 本語なし	ショヨシマスレ (所用しますれ)
		*前行の2つ目の訳という意味で、「2」という数字が振られている。				
527	023b	мотаю	(漏れる)	морймасъ	ひらがな日 本語なし	モリマス <sup>°</sup> (漏り ます)
528	023b	молочу	(軽く叩く)	узуймасъ	ひらがな日 本語なし	ウズイマス <sup>°</sup> (打 ついます [打ち ます])
		*ロシア語は「молотить」(脱穀する)参照。Макс Фасмерの古語辞典《Этимологический словарь русского языка》(1987、1986、モスクワ、прогрес社刊)では「слегка колотить」(軽く叩く)とあり、意味的にはこちらに近いかもしれない。「ウズイマス」を「白います」と解釈したのではサ行スが有声化したことになり、音環境が合わない。むしろツが有声化したほうが自然。「打つ」に關係する語形なのではなからうか。 『日本方言大辞典』では「うちばー [打棒] ①脱穀用の農具、穀竿 (からざお)」が山形県に分布しており、下北方言でも「打つ」が「脱穀する」意を持っていたと考えられようか。 さて、「молочу」は現在形なので、「打つ」と「います」を並列に並べたものかもしれないが、「打ちます」のチ音が中舌化していることを反映しているのかもしれない。36bに「押す」にあたる日本語に「おすいます」とあるが、これも「押します」のことであろう。28bに「非難する、中傷する」に「ふえいました」とあるが、これは「へました」のことであろうと思われる。				
529	023b	молотило	(脱穀する)	караму	からむ	カラム (絡む)
		*ロシア語は「молотить」(脱穀する)参照。『日本方言大辞典』「からむ (絡)」に「麦などの実を打ち落とす」(青森県三戸郡)の例がある。				
530	023b	морехо\д/: шопурманъ	(船乗り; 大型 船舶・軍艦の航 海士)	мйсагй	ひらがな日 本語なし	ミサギ (御先)
		*ロシア語「шопурманъ」は「штурманъ」(大型船舶・軍艦の航海士)参照。 日本語は「貴人などの先に立って道案内をすること」(『日本国語大辞典』)と関係があるか。				
531	023b	молоко	(牛乳)	чйй	ひらがな日 本語なし	チイ (乳汁)
		*「チ」は中央語にも古くからある語形。『日本国語大辞典』では西日本に広く分布しているが、下北方言にもあったと思われる。39aのス <sup>ス</sup> (酢)や43aのケイ (毛)などから、この方言では一拍語が長音化していたと思われる。				
532	024a	мостъ	(橋)	キリル文字日本語 なし	ひらがな日 本語なし	

【H】						
533	024a	нашь	(私たちの)	вадагушрано	わたくしらの	ワダグシラノ (私らの)
534	024a	начало	(始まり)	фашмеде	はしめて	ファシメデ (初めて)
535	024a	началь	(開始した)	фашмемашта	はしめました	ファシメマシタ (始めました)
536	024a	начйнаю	(開始する)	фашмемась	はしめます	ファシメマシ (始めます)
537	024a	надеваю	(着せる かぶせる)	кабурймасъ	ひらがな日本語なし	カブリマス (被ります)
538	024a	напеваю	(歌う)	удаймасъ	うたいます	ウダイマス (歌います)
539	024a	нашйваю	(縫い付ける)	нуймасъ	ぬいます	ヌイマス (縫います)
540	024a	направо	(右)	нйгарй	にかり	ニガリ (右)
<p>*『日本方言大辞典』によれば青森県三戸郡には「にぎり」の語形がある。佐藤『南部のことば』にも「にきり[みきりー右]」があり、本例の「にがり」はこの系統の語彙と思われる。</p> <p>右手は「にぎる」ことが多いことから、「右=にぎり」という語形(とその系統)が成立したのであろうか。ニギリがニガリになったのは、ニガリ(右)ーフィダリ(左)という語形で同じ母音の並びで揃えることで、左右が対をなしていたと思われる。</p>						
541	024a	налево	(左)	фйдари	ひたり	フィダリ(左)
542	024b	набокъ ложусъ	(横に置く)	йгонй шймасъ	よこにします	ヨゴニシマス (横にします)
*ロシア語「на бок ложусъ」参照。						
543	024b	намъ	(当方)	вадагушранй	わたくしらに	ワダグシラニ (私らに)
544	024b	насто\л/ положй	(食卓の上へ置け)	фандайса съе сашаре	はんたいさ す江さしや れ	ファンダイサ スィエサシャレ (飯台さ 据えさ しゃれ)
*ロシア語「настол」は「на+стол」(前置詞+机)参照。						
545	024b	на лавкъ	(ベンチで)	эньно увени	えんの う 江に	エンノ ウウェ ニ(縁の上に)
546	024b	нанель	(雇った)	тано\н/да	たのんた	タノンダ(頼んだ)
*ロシア語「нанять」(借りた 雇われた)参照。						
547	024b	намерень	(するつもりである しようとする)	омоймасъ	をみます	オモイマス(思 います)
548	024b	натермйнъ	(名辞の上で)	キリル文字日本語 なし	ひらがな日 本語なし	
*ロシア語は「на+термкн」(名辞 術語 期限)参照。						
549	024b	нагй	(裸)	фадага	はたか	ファダガ(裸)
550	024b	неходй	(行かないで)	арйгасшарна	ありがしや るな	アリガスシャル ナ(歩かっしゃ るな)
*ロシア語「не+ходи」参照。						
551	024b	нехожу	(行くな)	арйгй машень	ありきませ ん	アリギマシェン (歩きません)
*ロシア語「не+хожу」参照。						
552	024b	невеста	(花嫁)	йюме	よめ	ヨメ(嫁)

553	024b	непришель	(来なかった)	кймашень	きません	キマシエン (来ません)
*ロシア語「не+пришел」参照。						
554	024b	недругъ	(友達でない)	томодажи гозара\н/	ともたちこ さらん	トモダジ ゴザ ラン (友達御座 らん)
*ロシア語は「не+другъ」(否定+友達)参照。						
555	024b	недури; нейераи	(ふざけるな; 驕るな)	фогорас'шарна	ほこらすし やるな	フォゴラス°シャ ル°ナ (誇らっ しゃるな)
*ロシア語「недури」は「не+дурить」(否定+いたづらをする、ふざける)参照。「нейераи」はよくわからないが、一応、「не+иереи」ととって、「(司祭のようにふるまって)驕るな」と訳しておく。 村山1965では「悪戯をするな」と訳す。「ほこる」は「狂う」意であろう。428参照。佐藤『南部のことは』では「ほこらっしゃるな [馬鹿さわぎをなさるな] (下北)」とある。						
556	024b	неплачь	(泣くな)	нагйса'шар'на	なきさしや るな	ナギサシャル°ナ (泣きさしやる な)
*ロシア語「не+плачь」参照。						
557	025a	неуходи	(行くな)	арйгас'шарна	ありかしや るな	アリガス°シャ ル°ナ (歩がっし やるな)
558	025a	необиждай	(侮辱するな)	конасашарна	こなさしや るな	コナサシャル°ナ (こなさしやる な)
*『日本方言大辞典』で「こなす」は「悪く言う。けなす」として「宮城県仙台市 山形県 福島県」などが挙げられる。佐藤『南部のことは』でも「こなす ものをいじくりまたは、打擲したりしていじめること」とある。						
559	025a	кнеспй	(眠るな)	несашарна	ねさしやる な	ネサシャル°ナ (寝さしやるな)
*ロシア語は「не+спать」(否定+眠る)参照。						
560	025a	нео\т/ранись	(反論するな)	варйгу ювасш арна	わりく ゆ わすしやる な	ワリグ ユワス° シャル°ナ (悪く 言わっしゃるな)
561	025a	некогда	(一度)	из'демунай	いつてむな い	イズ°デムナイ (何時でもない)
*村山1965は「この日本語訳はнекогдаをне-когдаと解し、機械的に日本語にうつしたものであろう」とする。ロシア語「когда」(時)の打消と考えたという説であり、そのとおりだと思う。						
562	025a	неменяюсь	(取り替えない 交換しない)	торйга имаше\н/	とりかいま せん	トリガイマシエ ン (取り替えま せん)
*ロシア語は「не+менять」(否定+取り替える)参照。						
563	025a	нео\т/воряю	(開けない)	агемашень	あけません	アゲマシエン (開 けません)
*ロシア語は「не+отворить」(開く)参照。						
564	025a	незапйраю	(鍵を閉じ込め ない)	тадесашймаше\ н/	たてさしま せん	タデサシマシエ ン (立てさしま せん)
*ロシア語は「не+запереть」(否定+閉じる)参照。 佐藤『南部のことは』「たてる 戸をたてる」のような言い方があるので、「鍵をする」意に宛てたのではなかろうか。						
565	025a	нетъ	(いいえ)	гозаранъ	こさらん	ゴザラン (御座 らん)

566	025a	нетли	(いいえかどうか)	гозарймашенга	とさりませんか	ゴザリマシエンガ (御座りませんが)
*ロシア語は「нет+ли」(か [疑問])。						
567	025a	неначую	(宿泊しない)	гомарй машен\н/	とまりません	トマリ マシエン (泊まりません)
*ロシア語は「не+ночевать」(否定+夜を過ごす、泊まる) 参照。o → a。						
568	025a	несыщу	(探し出さない)	газнемашень	たつねません	タズ°ネマシエン (尋ねません)
569	025a	небоюся	(恐れない)	окана гозарань	をかなこさらん	オカナ ゴザラン (おっかな御座らん)
570	025a	неслышу: неслыха\л/	(聞いたことがない)	кйгймашень	ききません	キギマシエン (聞きません)
571	025a	невежливый	(無礼な)	джйги\н/(ママ) бугаи втоде гозарань	ちきんふかい ひとて こさらん	ヂギン ブガイ フトデゴザラン (辞儀深い人で御座らん)
572	025b	неделаю	(作らない)	кошраймашень	こしらいません	コシ°ライマシエン (拵えません)
573	025b	неделай	(作るな)	кошрайсашарна	こしらいさしやるな	コシ°ライサシャル°ナ (拵えさしやるな)
574	025b	нечйтай	(読むな)	юмас°шарна	よますしやるな	ヨマス°シャル°ナ (読まっしゃるな)
575	025b	найзусь читаи	(覚えて読め)	сораде юмас°шаре	そらて よましやれ	ソラデ ヨマス°シャル° (空で読まっしゃれ)
576	025b	напередь прйшол	(先をあらそつて来た)	адое кймашта	あと江 ききました	アドエ キマシ°タ (後へ来ました)
*ロシア語は「пришел」(来る) 参照。						
577	025b	назадь прйшоль	(以前に 来た)	сагйни кима\ш/га	さきに ききました	サギニ キマシ°タ (先に来ました)
578	025b	напередь ушоль	(先をあらそつて 行った)	сагйни игймашта	さきに いきました	サギニ イギマシ°タ (先に行きました)
579	025b	назатъ (ママ) ушоль	(以後に 行った)	адое игймашта	あと江 いきました	アドエ イギマシ°タ (後へ行きました)
*577では「назадь」と硬音符号。						
580	025b	нездоровыи	(不健康な)	бюони\н/	び°やうをにん	ビョオニン (病人)
*ロシア語「нездоровый」参照。						
581	025b	недо\б/рые	(意地の悪い 悪意のある)	егунай годо	江くないこと	エグナイゴド (良くない事)
582	025b	неговорйтъ	(言わない)	сабйрымашень	さひりません	サビリマシエン (喋りません)

583	025b	несчастливыи	(不幸)	шйя вашено в'тоде гозарь	しや わせ の ひとて こさる	シヤワシエノ フ'トデ ゴザル 。(幸せの人で御 座る)
		*ロシア語「несчастливый」は「不幸」なので、ひらがな日本語やキリル文字日本語が逆になっている。村山1965でも「不幸な人」とある。				
584	025b	небесныи	(空の 天国)	теньжугу	てんちやく (ママ)	テンジユグ (天 竺)
		*「天国」という日本語にあたるように見えるが、「天国」という訳語が成立するのは明治期であろうから、「天竺」に宛てたものか。				
585	025b	не укоряй	(とがめるな)	сонемас'шарна	そねましや るな	ソネマス'シャル 。ナ (嫉まっしや るな)
586	025b	несердйся	(怒らせるな)	кймо яйде к удасарна	きも やい てくたさる な	キモ ヤイデ クダサル'ナ (肝 焼いて下さるな)
		*『日本方言大辞典』に「きもやき(肝焼) 怒りつばい者。岩手県九戸郡」とある。				
587	026a	носъ	(鼻)	фана	はな	ファナ (鼻)
588	026a	нозрй	(鼻腔)	кобана	こは'な	コバナ (小鼻)
		*ロシア語「ноздри」参照。 村山1965では「[鼻孔]に相当するロシア語をコバナと訳すのは誤り」とする。				
589	026a	ногй	(足)	ашй	あし	アシ (足)
590	026a	ножйкь	(ナイフ)	магйрй	まきり	マギリ (ま斬り)
		*ベトロワ1962論文にマギリはアイヌ語であるという指摘があるが、『野辺地方言集』ではアイヌ語ではないとする。				
591	026a	но\ж/нйцы	(ハサミ)	фасамй	はさみ	ファサミ (ハサ ミ)
592	026a	ночь	(夜)	ю ру	よる	ヨル (夜)
593	026a	ночь темная	(暗い夜)	куррой ю ру	くろい よ る	クロイ ヨル (黒 い夜)
594	026a	ноне	(現在)	има	いま	イマ (今)
		*ロシア語「ныне」参照。				
595	026a	нордь:йлй северь	(北;あるいは 北)	к'ш'та	くした	ク'シ'タ (北)
		*「кш」部分について、村山1965では東北で聞かれるキの破擦音化した音声(チに近い音声)を写したものとす。				
596	026a	неемъ	(食べない)	квуймашень	くいません	クウイマシエン (食いません)
597	026a	непиль	(飲まない)	номймашень	のみません	ノミマシエン (飲 みません)
598	026a	непей	(飲ませるな)	номас'шарна	のませやる な	ノマス'シャル 。ナ (飲ませるな)
599	026a	неожидай	(待つな)	ма\ж/де ісаш арна	まちて い さしやるな	マジ'デ イサ シャル'ナ (待ち ていさしやるな)
		*ロシア語は「не+ожидать」(否定+待つ)参照。				
600	026a	ножйкь	(ナイフ)	магйри	まきり	マギリ (ま斬り)
		*ベトロワ論文ではアイヌ語。菅野『アイヌ語辞典』にもある。『野辺地方言集』ではアイヌ語ではないとする。				

(つづく)

付記：平成26年～平成28年度科研費基盤研究（c）-26370536「十八世紀青森下北方言を反映するタタリノフ『レキシコン』についての文献方言史的研究」の支援を受けた。

また佐井村教育委員会生涯学習課主査・社会教育主事の加藤久美子氏に御教示を受けた。感謝申し上げます。

（えぐちやすお 岡山大学大学院社会文化科学研究科）